

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101777		
法人名	医療法人リバーサイド		
事業所名	グループホームグランスウィートマリー		
所在地	徳島市川内村富久102-2		
自己評価作成日	平成29年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りが、さつまいもとレンコンの畑で空気の美味しい落ち着いた雰囲気施設の施設です。無理な計画は立てず、入居者の方々が持たれているそれぞれの思いを大切に、ストレスの少ないゆったりとした生活を送って頂けるように努めています。施設は1階がデイサービス、2階、3階がグループホームになっており、デイサービスの利用者さんと一緒に、フラダンスやヴァイオリンの演奏会を開催しました、皆さんにも楽しんでいただいております。入居者の皆さんの中には、家族がおられなかったり、とてもお金に苦労されたりと辛い思いをされた方がおられます。職員はその方のご家族に代わることはできませんが、一人一人の気持ちに寄り添っていきたくと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、穏やかな田園風景の広がる中、同一法人の運営する他事業所が併設している。事業所は三階建ての二・三階に位置している。医療機関と連携を図り利用者の健康状態に応じた医療の受診を支援している。医師や看護師の訪問が多く、利用者や家族の安心につながっている。管理者と職員は、理念のもと、本人が安心して過ごすことができるよう支援している。運営推進会議の出席者から、事業所と地域とのつながりが充実できるよう助言や意見を出してもらうなどし、出された意見を職員間で検討している。管理者が中心となって、利用者一人ひとりの意向や希望に応じた日常的な外出支援ができるよう、ボランティアなどの育成や確保に向けた取り組みを職員間で検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、『目配り、気配り、心配り』という理念の下、利用者一人ひとりがその方らしい生活を送る為に御本人の意見を尊重し、その方に必要な介助以外は見守りを中心とした介護を行っている。	管理者と職員は、地域密着型サービスの意義をふまえた、開設当初からの事業所独自の理念を大切にしている。職員間で、話し合うなどして理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議のメンバーに地区の民生委員さんになってもらったり、散歩に出かけたときには農作業をしている方に挨拶をさせてもらったり、少しずつではあるが、近所の方々との交流を始めている。	事業所は、農業が盛んな地域であり、近隣に民家等は多くなく田畑に囲まれているなどことから、事業所自体が地域の一員として積極的に交流の機会を得るまでには至っていない。	今後は、管理者が中心となって、利用者が地域との交流を行い、地域で暮らし続けることができるよう職員間で話し合われたい。また、運営推進会議を活用して、地域の情報を得るなどし、事業所が地域の一員として交流することができるようさらなる取り組みに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんの会合に出席させていただいた時や、近隣のボランティアグループが来られた際には認知症についての説明を行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所における取り組みや課題についての対応を説明報告し、参加者さんからの意見や助言を取り入れ、ボランティアの紹介などの便宜を図ってもらっている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の利用状況や行事等の報告を行うなどして、出席者から意見等を出してもらっている。出された意見等は、職員間で話し合うなどしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当事業所は認知症の方々以外にも精神的な疾患を抱えた方や、貧困問題に悩む方もおられ、市役所の担当者には絶えず報告を行い、指導や助言をいただいている。	管理者と職員は、市担当者と情報を共有したり、困難な事例の解決に向けて助言を得たりしている。地域包括支援センター担当者とも連携を図ることができるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、ご本人の安全と尊厳をモットーとして研修会を行い、ご本人の安全のためどうしても必要と認められるときのみ、ご家族、医療機関とよく相談の上、ご家族の同意の下の実施となる。	事業所では、身体拘束の弊害や具体的な拘束の内容に関する研修を開催している。しかし、利用者の安全確保の理由から各階の出入口や玄関を施錠している。	事業所として、職員が身体拘束の弊害や内容について理解を得るための勉強会や研修会の機会を積極的に設けられたい。鍵をかけるという行為が当然のようになれないよう、利用者が外に出なくなる場面や理由を知るよう努めるなどして、声かけや見守りを行い、拘束感のないケアの実践に取り組まれない。
7		○虐待の防止の徹底 管理者と職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『目配り、気配り、心配り』という理念の下、利用者さんの立場に立ち、介護を行うとともに、内外の研修に参加できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	計画作成担当者が社会福祉士で権利擁護支援を行う組織に所属している。利用者の個別の問題について、その組織の支援を得て対処すると共に、職場においても絶えず話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や計画作成担当者が、書面での説明を行ない、理解納得してもらえるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談については窓口を設けているが、それ以外にも日常的に利用者さんやそのご家族の話をよく伺い、対応できるようにしている。	年2回、事業所では家族会を開催するなどし、利用者や家族から話を聞いている。管理者と職員は、家族の来訪時には、利用者の生活の様子を話すなどして意向等を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループ内でのコミュニケーションを重視し、絶えず、意見の出しやすい職場であるように心がけている。提案は他の職員と共に話し合い仕事に反映するようにしている。	管理者は、日頃のケアの中で、職員の意見や要望を聞くようにしている。個別に話を聞いたり、相談に応じたりしている。出された提案やアイデアは、職員間で検討するなどし、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は当事業所が徳島市においてどういう位置付けになるのかを考え、管理者、職員の資質能力を見極め、それぞれが働きやすい様に職場環境・条件の整備に努めている、		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は努めてから2～3年経過した者が主流となり、新しく入ってくる職員の指導も行えるようになってきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所に個別研修をお願いしたり、見学に赴いたりして、当施設にない個別のスキルを事業所に伝えるとともにサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	緊急入居される方が最近増え、事前情報が少ない場合もある。当日からご本人及び関係者よりヒアリングを行い、きめ細かい様子観察を行う事によってご本人が安心されるような関係づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族より当施設を選ばれた経緯を伺い、現在のお困りごとをお聞きして、ご家族に必要以上の負担がかからないようにするとともに、連絡を密にして安心して頂ける様な関係性が持てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のお話をよく伺うとともに、ADLや日常生活における状況をよく観察し、本人が思うところと実際に必要な支援との差も考慮しながら何が必要か見極めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には利用者を自分の身内としてお世話するように指導している。各ユニットを一家族として利用者、職員共に過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時にご家族との連絡方法を決め(メール、ライン、書簡、電話、訪問時での対応)連絡を密に行い、ご家族に利用者の状況をお伝えし、絶えず話し合えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の友人の方でも訪問しやすい様に面会時間を特に定めず対応している。	事業所では、市担当者の協力を得るなどして、利用者がこれまで培ってきた人間関係や地域社会との関係性の把握に努めている。家族や友人、知人との関係性が途切れることがないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮したうえで、出来るだけ居室に閉じこもらないようにホールに出てきて頂き、お互いに声を掛け合い、助け合う様に指導し見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス修了後、新しく移られた施設や病院に面会に行ったりして、関係性の継続を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりが、気兼ねなく自分の思いを話すことが出来る様に、職員は聞き役に回り、ご本人の暮らし方の意向に沿う様に努めている。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で思いや希望を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	当施設には身寄りのない方がおられ、以前の暮らしぶりについての情報がなく、ご本人にお話を伺いながら、日頃の生活より垣間見える状況から以前の生活について把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護の中で、職員が利用者それぞれの心身状態、過ごし方について把握し、職員同士で共有するように日々努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの在り方については、疑問点問題を絶えず職員同士で話し合い、そこで出た意見は介護計画の作成に役立っている。	事業所では、利用者の思いを介護計画に反映することができるよう、職員間で話し合っ て作成している。利用者の心身状況の変化に応じて、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や、バイタル等各種記録をもとにカンファレンスを行い、利用者にとっての最善策を絶えず協議している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	選挙期間中はご本人の能力に応じて期日前投票の支援を行い、利用者の政治参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時の挨拶や地域ボランティアグループとの交流等、隣接施設と共に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、居宅療養管理指導にて対応しているが、必要に応じて、ご家族及び医療機関との協議の上、他の医療機関への受診も支援する。	事業所では、利用者全員が協力医療機関の医師を主治医としている。専門科の受診には職員が同行しており、生活の様子などを伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	のぞみ病院との医療連携により週1回の訪問看護が実施されている。その都度利用者の状況について報告し、相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の急変時には、ご家族、主治医に連絡主治医からは現場でできることについての指示を頂き、入院先に付き添い、日頃の状況と体調変化時の状況を入院する病院に文書で送付している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との連携の下、日頃からご家族との連携を密に行うことによって状況の変化に対応、事業所として出来ることを説明し、ご家族と善後策について協議している。	利用者の心身状況の変化に応じて家族や関係者間で話し合っている。事業所として出来ることを家族に伝えており、方針の共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から協力医療機関の指示の下、実践力を身に付けるように努力すると同時に、救急救命の講習会を企画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を開催、津波対策としては利用者を全員3階に避難して頂くように申し合わせている。	年2回、事業所では避難訓練を行っている。同一法人の運営する他サービス事業所の職員の協力を得ている。災害時に備えて飲料水を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の状況に合わせて、見守りの距離を考慮し、ご本人の気持ちに即した声掛けや対応を実施している。	職員は、ミーティングの際に、利用者への尊厳ある支援について確認しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事であっても自身で決定するという瞬間を大切に考え、本人が納得できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居される前の生活についての情報を収集し、その生活習慣を一部踏襲しながら、ご本人にとって無理のない生活をして頂ける様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の健康のために季節に合った服装をして頂くのが原則であるが、その中でも本人が気に入っている服はできるだけ着て頂くと同時に、この服の方が似合いますよという提案も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりが食事を摂ることに対してストレスを感じないように心がけている。完食出来たら良かったですねと声かけを行う様にしている。	利用者は、おやつ作りなどの役割を担っており、できる範囲で参加している。職員は、利用者が自分で食べることができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事形態、お箸やスプーン等を用意し出来るだけ自ら食べて頂くように声掛けを実施、介助を要する利用者には嚥下に注意しながら介助。本人のペースに合わせて食べて頂くようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に対して口腔ケアを促し、自ら出来ない場合は介助によって実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意が曖昧でも、排泄の周期を作る為に、立位が出来る場合は、トイレ誘導し便器に座ってもらってからパット交換を実施している。	事業所では、利用者一人ひとりに応じた排泄の支援に努めている。可能な限り、トイレで排泄することができるよう、利用者の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	廊下で歩行練習をして頂いたり、水分の摂取を勧め、定期的な排泄につながる様に務めている。排便に至らない場合は、緩下剤を使用したり浣腸を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的を実施しているが、ご本人の希望時間による入浴までには至っていない。	事業所では、少なくとも、週2回は入浴することができるよう支援している。入浴を拒む利用者には、声かけやタイミングを工夫するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	細かい予定は立てていないので、本人の状況によって好きな時間に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	精神的な疾患をお持ちの方が多い当施設では、服薬管理を徹底し、服薬後の状況をつぶさに観察、協力病院の医師、薬剤師と連携を取りながら、その方に合った服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一部の利用者は、牛乳パックを切り開いてもらったり、職員と一緒にゴミ捨てや洗濯物置みを行って頂いているが、重度の利用者については役割分担までには至っていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前より介護度の高い入居者が増えたため、日常の散歩以外の外出が難しくなっている。	季候の良い日には、利用者と職員で、敷地内の自動販売機に飲物を買ったり、玄関に設置しているベンチで日光浴を楽しんでもらったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお小遣いは施設にて管理し、介護用の靴や衣類などの購入についてはその都度ご家族に相談してから実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は高齢者向けの携帯を使用しておられる利用者がおられたが、現在はいない。手紙については書いて頂いたものをお預かりして投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに大きなテレビがあり、そこで時代劇を観て過ごされるために利用者が集まってくる。空調等にも気を使い居心地のいい空間であるように心がけている。	共有空間は明るく、清潔な環境を保持している。日当たりも良く、ゆったりと過ごすことができる空間となっている。壁面には季節の花を活けたり、利用者と職員で作った作品を飾ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のスペース、リビング・食堂でそれぞれの方が過ごす場所はほぼ決まっており、その場所にいることが心の安定につながっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真やぬいぐるみなど、ご本人の好みの物を居室において頂き、落ち着いて過ごせる場所であるように心がけている。	事業所では、利用者の使い慣れた家具や品物を、居室に持ち込んでもらっている。利用者と職員で話し合い、清潔で居心地良く過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂場、洗濯場の表示を大きく見やすい様に配慮している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、『目配り、気配り、心配り』という理念の下、利用者一人ひとりがその方らしい生活を送る為に御本人の意見を尊重し、その方に必要な介助以外は見守りを中心とした介護を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議のメンバーに地区の民生委員さんになってもらったり、散歩に出かけたときには農作業をしている方に挨拶をさせてもらったり、少しずつではあるが、近所の方々との交流を始めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんの会合に出席させていただいた時や、近隣のボランティアグループが来られた際には認知症についての説明を行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所における取り組みや課題についての対応を説明報告し、参加者さんからの意見や助言を取り入れ、ボランティアの紹介などの便宜を図ってもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当事業所は認知症の方々以外にも精神的な疾患を抱えた方や、貧困問題に悩む方もおられ、市役所の担当者には絶えず報告を行い、指導や助言をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、ご本人の安全と尊厳をモットーとして研修会を行い、ご本人の安全のためどうしても必要と認められるときのみ、ご家族、医療機関とよく相談の上、ご家族の同意の下の実施となる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『目配り、気配り、心配り』という理念の下、利用者さんの立場に立ち、介護を行うとともに、内外の研修に参加できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	計画作成担当者が社会福祉士で権利擁護支援を行う組織に所属している。利用者の個別の案件について、その組織の支援を得て対処すると共に、職場においても絶えず話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や計画作成担当者が、書面での説明を行ない、理解納得してもらえるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談については窓口を設けているが、それ以外にも日常的に利用者さんやそのご家族の話をよく伺い、対応できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループ内でのコミュニケーションを重視し、絶えず、意見の出しやすい職場であるように心がけている。提案があれば他の職員と共に話し合い、sklgとに反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は当事業所が徳島市においてどういう位置付けになるのかを考え、管理者、職員の資質能力を見極め、それぞれが働きやすい様に職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は努めてから2～3年経過した者が主流となり、新しく入ってくる職員の指導も行えるようになってきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所に個別研修をお願いしたり、見学に赴いたりして、当施設にない個別のスキルを事業所に伝えるとともにサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	やむを得ず緊急入居される方も最近増えているので、事前情報が乏しい場合も少なくない。ご本人よりお話を伺い気持ちを受け止めることによって安心されるような関係づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族があれば、当施設を選ばれた経緯を伺い、現在のお困りごとをお聞きして、ご家族に必要な以上の負担がかからないようにするとともに、連絡を密にして安心して頂ける様な関係性が持てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のお話をよく伺うとともに、ADLや日常生活における状況をよく観察し、本人が思うところと実際に必要な支援との差も考慮しながら何が必要か見極めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には利用者を自分の身内としてお世話するように指導している。各ユニットを一家族として利用者、職員共に過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時にご家族との連絡方法を決め(メール、ライン、書簡、電話、訪問時での対応)連絡を密に行い、ご家族に利用者の状況をお伝えし、絶えず話し合えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の友人の方でも訪問しやすい様に面会時間を特に定めず対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮したうえで、出来るだけ居室に閉じこもらないようにホールに出てきて頂き、お互いに声を掛け合い、助け合う様に指導し見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス修了後、新しく移られた施設や病院に面会に行ったりして、関係性の継続を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりが、気兼ねなく自分の思いを話すことが出来る様に、職員は聞き役に回り、ご本人の暮らし方の意向に沿う様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	当施設には身寄りのない方がおられ、以前どのように暮らしておられたかを知ることは困難である。ご本人にお話を伺いながら、日頃の生活より垣間見える状況から以前の生活について把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護の中で、職員が利用者それぞれの心身状態、過ごし方について把握し、職員同士で共有するように日々努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの在り方については、疑問点問題点を絶えず職員同士で話し合い、そこで出た意見は介護計画の作成に役立っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や、バイタル等各種記録をもとにカンファレンスを行い、利用者にとっての最善策を絶えず協議している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	選挙期間中はご本人の能力に応じて期日前投票の支援を行い、利用者の政治参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時の挨拶や地域ボランティアグループとの交流等、隣接施設と共に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、居宅療養管理指導にて対応しているが、必要に応じて、ご家族及び医療機関との協議の上、他の医療機関への受診も支援する。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	のぞみ病院との医療連携により週1回の訪問看護が実施されている。その都度利用者の状況について報告し、相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の急変時には、ご家族、主治医に連絡主治医からは現場でできることについての指示を頂き、入院先に付き添い、日頃の状況と体調変化時の状況を入院する病院に文書で送付している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との連携の下、日頃からご家族との連携を密に行うことにより状況の変化に対応、事業所として出来ることを説明し、ご家族と善後策について協議している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から協力医療機関の指示の下実践力を身に付けるように努力すると同時に、救急救命の講習会を企画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を開催、津波対策としては利用者を全員3階に避難して頂くように申し合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の状況に合わせて、見守りの距離を考慮し、ご本人の気持ちに即した声掛けや対応を実施している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事であっても自身で決定するという瞬間を大切に考え、本人が納得できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居される前の生活についての情報を収集し、その生活習慣を一部踏襲しながら、ご本人にとって無理のない生活をして頂ける様に心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の健康のために季節に合った服装をして頂くのが原則であるが、その中でも本人が気に入っている服はできるだけ着て頂くと同時に、このブラウスにはこのズボンがに逢いますよという提案も行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりが食事を摂ることに対してストレスを感じないように心がけている。完食出来たら良かったですねと声かけを行う様にしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者にあった食事形態、お箸やスプーン等を用意し出来るだけ自ら食べて頂くように声掛けを実施、介助を要する利用者には嚥下に注意しながら介助。本人のペースに合わせて食べて頂くようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に対して口腔ケアを促し、自ら出来ない場合は介助によって実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意が曖昧でも、排泄の周期を作る為に、立位が出来る場合は、トイレ誘導し便器に座ってもらってからパット交換を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	廊下での歩行練習をして頂いたり、水分の摂取を勧め、定期的な排泄につながる様に務めている。排便に至らない場合は、緩下剤を使用したり浣腸を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的を実施しているが、ご本人の希望時間による入浴までには至っていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	細かい予定は立てていないので、本人の状況によって好きな時間に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	精神的な疾患をお持ちの方が多いため当施設では、服薬管理を徹底し、服薬後の状況をつぶさに観察、協力病院の医師、薬剤師と連携を取りながら、その方に合った服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一部の利用者は、牛乳パックを切り開いてもらったり、職員と一緒にゴミ捨てや洗濯物畳みを行って頂いているが、重度の利用者については役割分担までには至っていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前より介護度の高い入居者が増えたため、日常の散歩以外の外出が難しくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお小遣いは施設にて管理し、介護用の靴や衣類などの購入についてはその都度ご家族に相談してから実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は高齢者向けの携帯を使用しておられる利用者がおられたが、現在はいない。手紙については書いて頂いたものをお預かりして投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに大きなテレビがあり、そこで時代劇を観て過ごされるために利用者が集まってくる。空調等にも気を使い居心地のいい空間であるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のスペース、リビング・食堂でそれぞれの方が過ごす場所はほぼ決まっており、空調の調整などで過ごしやすい環境を作るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真やぬいぐるみなど、ご本人の好みの物を居室において頂き、落ち着いて過ごせる場所であるように心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂場、洗濯場の表示を大きく見やすい様に配慮している。		